



少子化に関する県民意識調査結果概要

I 調査の概要

1 目的

県内における子育ての現状や少子化対策に関する県民の意識やニーズ等を調査し、特性を把握するとともに、新たな岐阜県少子化対策基本計画策定のための基礎資料とすることを目的として実施したものです。

2 調査対象及び回答者数等

| | |
|---------|--------------------------------------|
| 調査対象 | 県内に居住する満20歳以上50歳未満の男女各1,500人 計3,000人 |
| 抽出・調査方法 | 住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出法・郵送調査 |
| 調査期間 | 平成26年3月下旬～平成26年4月下旬 |
| 回答者数 | 881人（回収率29.4%） |

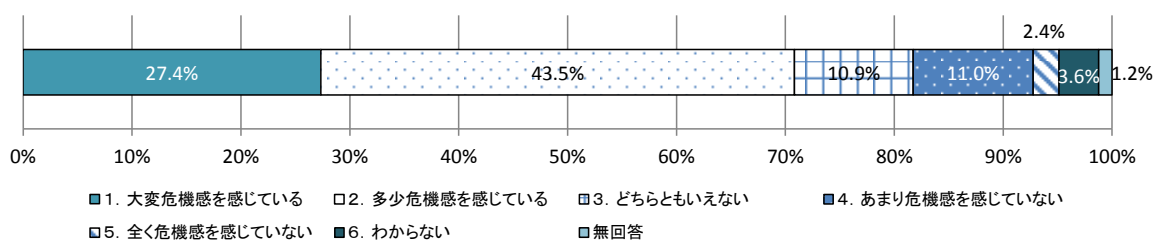
II 少子化などに関する意識

1 将来への危機感

- 現在の低い出生率が続くことについて、我が国の将来に危機感を感じているか聞いたところ、「大変危機感を感じている」（27.4%）と「多少危機感を感じている」（43.5%）をあわせると、7割の人が将来への危機感を感じている。

図1 将来への危機感

N=881

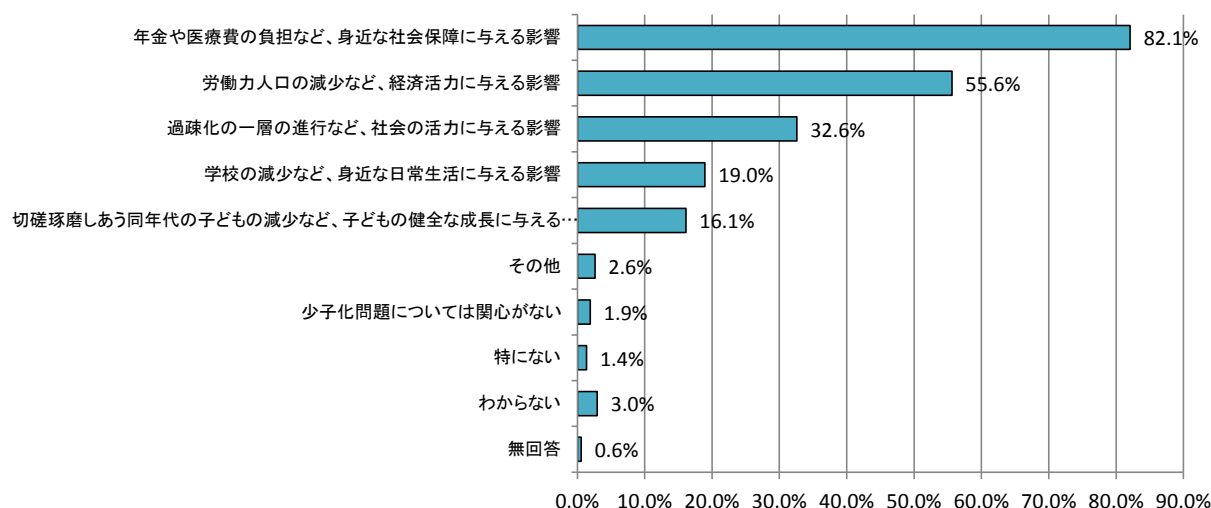


2 少子化が与える影響

- 少子化が与える影響については、「年金や医療費の負担など、身近な社会保障に与える影響」が82.1%と最も多く、次いで多いのは「労働力人口の減少など、経済活力に与える影響」で55.6%となっている。

図2 少子化が与える影響（いくつでも選択）

N=881

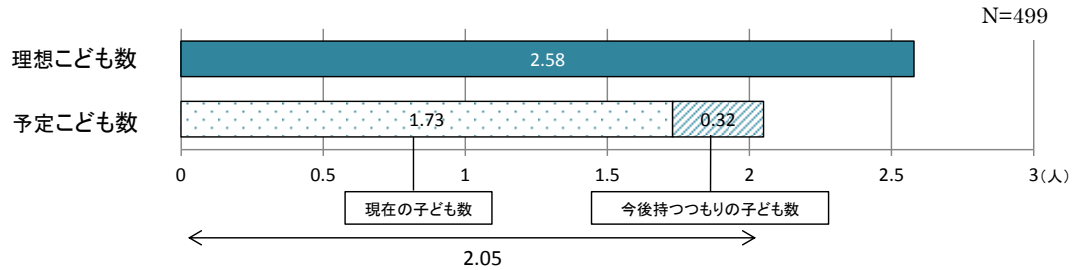


3 理想子ども数と予定子ども数

- 既婚者の理想子ども数は平均 2.58 人、予定子ども数（現在の子ども数 1.73 人+今後持つつもりの子どもの数 0.32 人）は平均 2.05 人で、その差は 0.53 人となっている。

※配偶者（事実婚を含む）と同居している人を既婚者として集計

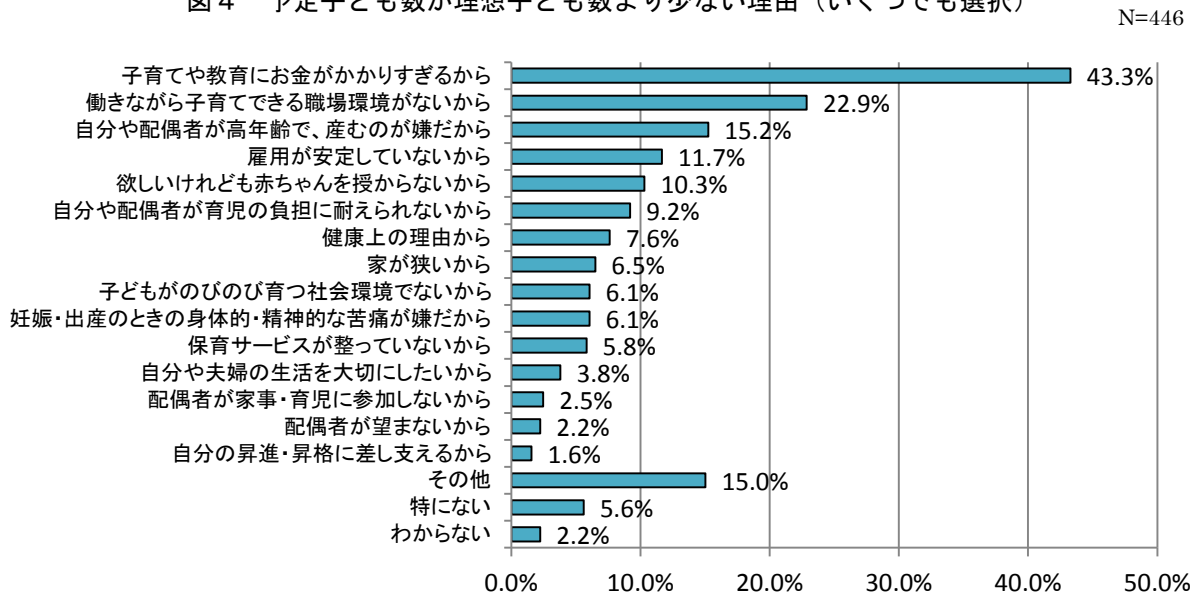
図3 平均理想子ども数と予定子ども数（既婚者）



4 予定子ども数が理想子ども数より少ない理由

- 予定子ども数が理想子ども数より少ない理由は、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が 43.3%と最も多く、次いで「働きながら子育てできる職場環境がないから」22.9%、「自分や配偶者が高年齢で、産むのが嫌だから」15.2%となっている。

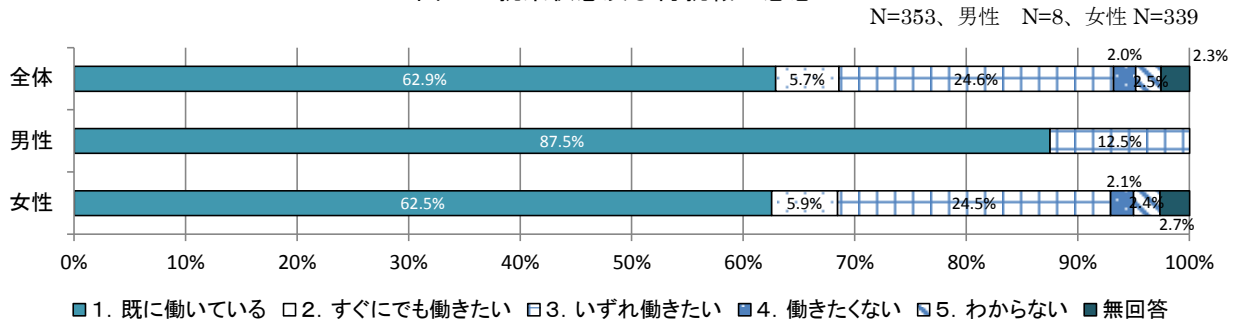
図4 予定子ども数が理想子ども数より少ない理由（いくつでも選択）



5 就業状態及び再就職の意思

- 結婚・出産・育児を機に仕事を辞めた経験のある人のうち、「既に働いている」人は 62.9%、「すぐにでも働きたい」は 5.7%、「いずれ働きたい」は 24.6%となっている。

図5 就業状態及び再就職の意思

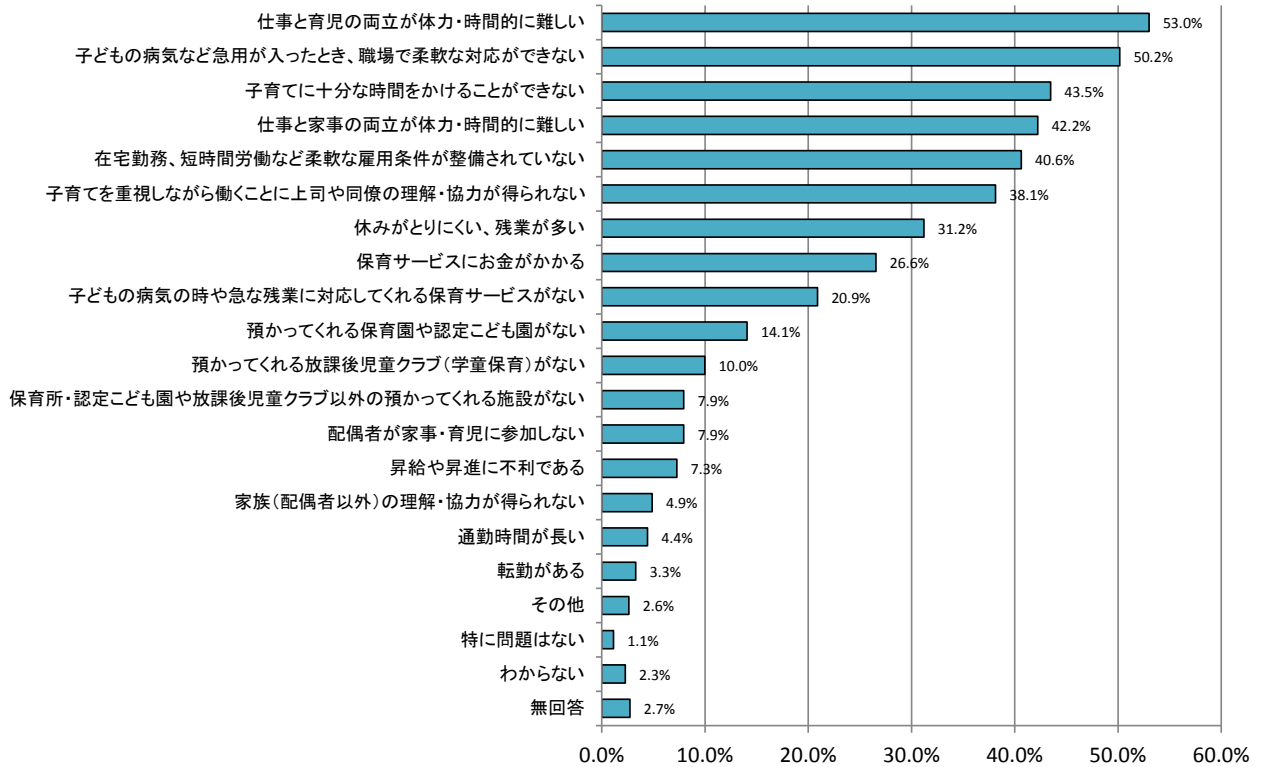


6 女性が子育てしながら働く上での問題点

- 女性が子育てしながら働く上で問題になっていることは、「仕事と育児の両立が体力・時間的に難しい」が 53.0%と最も多く、次いで「子どもの病気など急用が入ったとき、職場で柔軟な対応ができない」が 50.2%、「子育てに十分な時間をかけることができない」が 43.5%となっている。

図6 女性が子育てをしながら働く上での問題点（いくつでも選択）

N=881

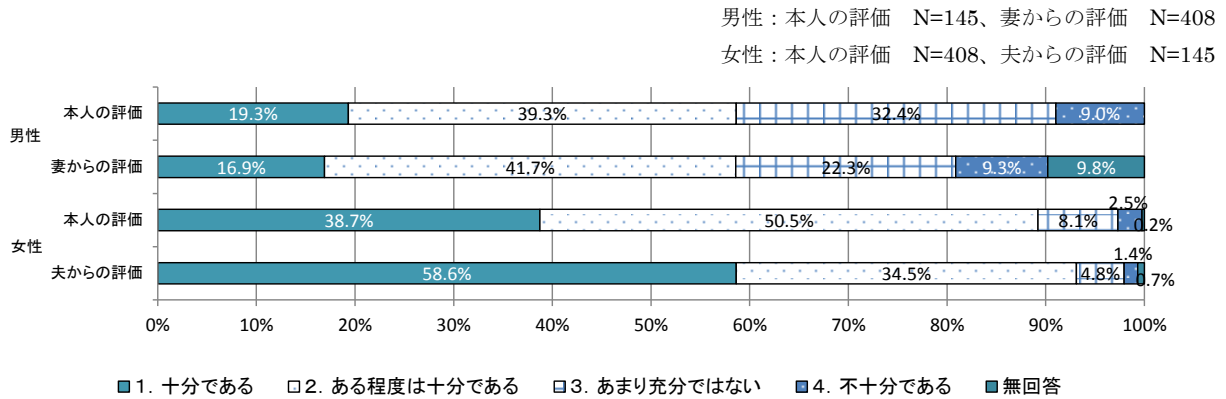


Ⅲ 子どもがいる人の子育てに関する意識

1 子育てへの関わり状況

- ・子育てへの関わり状況については、妻から見た夫を見た場合、夫の関わりが『不十分』という評価は31.6%（あまり十分でない22.3%、不十分である9.3%）となっている。
- ・夫から妻を見た場合、妻の関わりが『不十分』という評価は6.2%（あまり十分でない4.8%、不十分である1.4%）となっている。

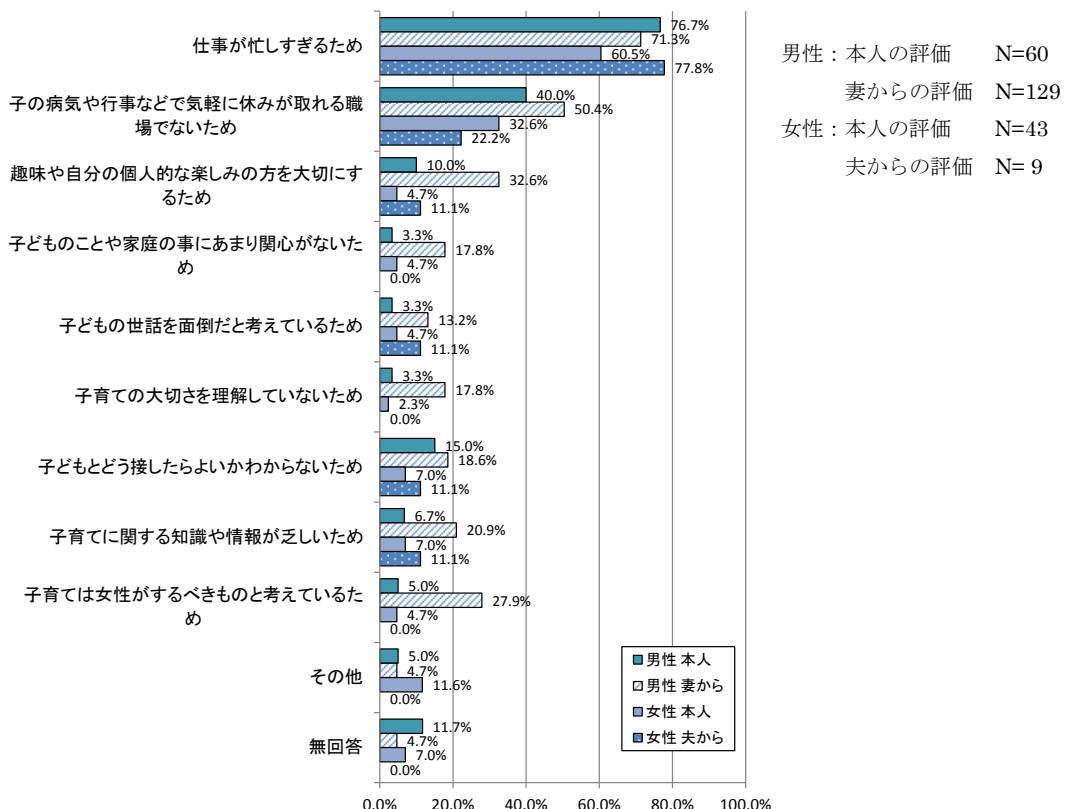
図7 男女別 子育てへの関わり状況



2 子育てへの関わりが不十分な理由

- ・男性の子育てへの関わりが不十分な理由は、男性自身及び妻からの意見ともに「仕事が忙しすぎるため」が76.7%、71.3%とそれぞれ最も高くなっており、次いで「子の病気や行事などで気軽に休みが取れる職場でないため」が40.0%、50.4%となっている。
- ・男性自身と妻からの意見を比較すると、「趣味や自分の個人的な楽しみの方を大切にするため」、「子育ては女性がすべきものと考えているため」で、妻の意見の割合が20ポイント以上高くなっている。

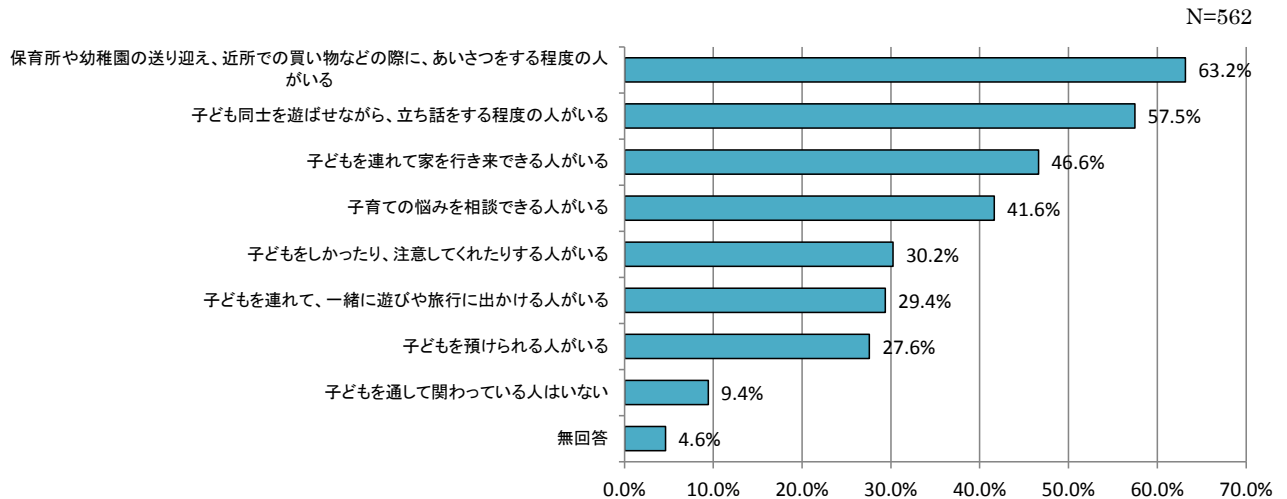
図8 子育てへの関わりが不十分な理由（いくつでも選択）



3 子どもを通じたご近所づきあい

- 子どもを通じたご近所づきあいは、「子育ての悩みを相談できる人がいる」は 41.6%、「子どもをしかったり、注意してくれたりする人がいる」は 30.2%、「子どもを預けられる人がいる」は 27.6%となっている。

図9 子どもを通じたご近所づきあい（いくつでも選択）

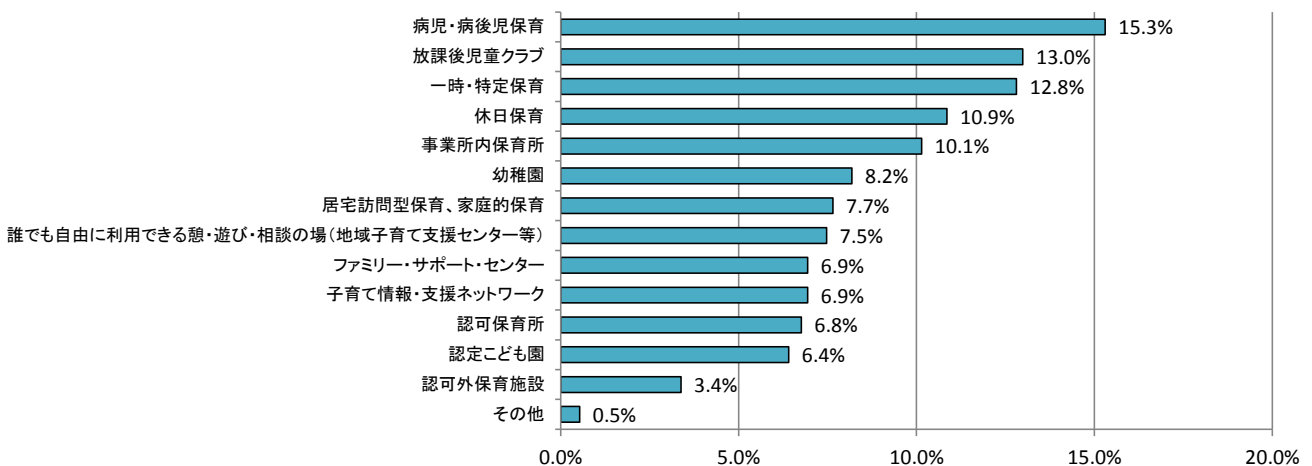


4 利用しなかった（してみたい）制度

- 子育てにあたり利用しなかった（利用してみたい）制度は、「病児・病後児保育」が 15.3%で最も多く、次いで「放課後児童クラブ」が 13.0%、「一時・特定保育」が 12.8%となっている。

図10 利用しなかった（してみたい）制度（いくつでも選択）

N=562



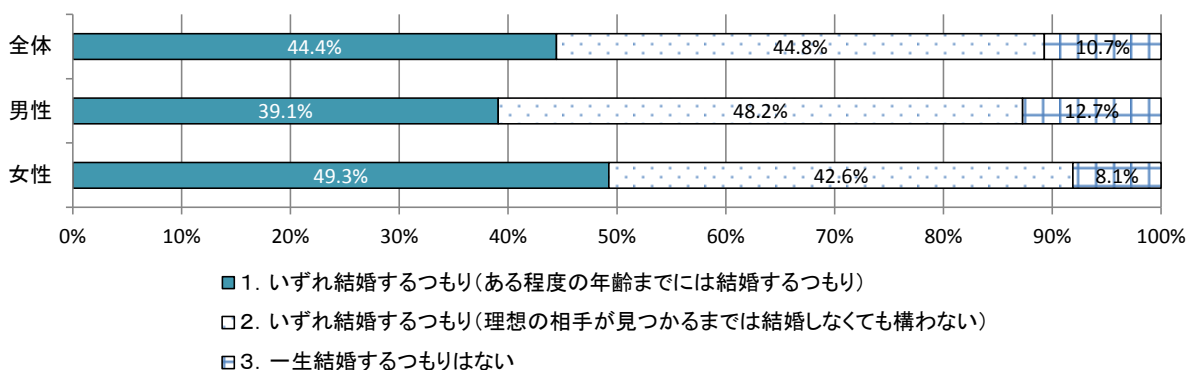
IV 独身者の結婚に関する意識

1 結婚の意思

- ・「いずれ結婚するつもり（ある程度の年齢までには結婚するつもり）」（44.4%）と「いずれ結婚するつもり（理想の相手が見つかるまでは結婚しなくても構わない）」（44.8%）をあわせると、独身者の89.2%がいずれは結婚する意思を有している。

図 1 1 結婚の意思

N=252、男性 N=110、女性 N=136

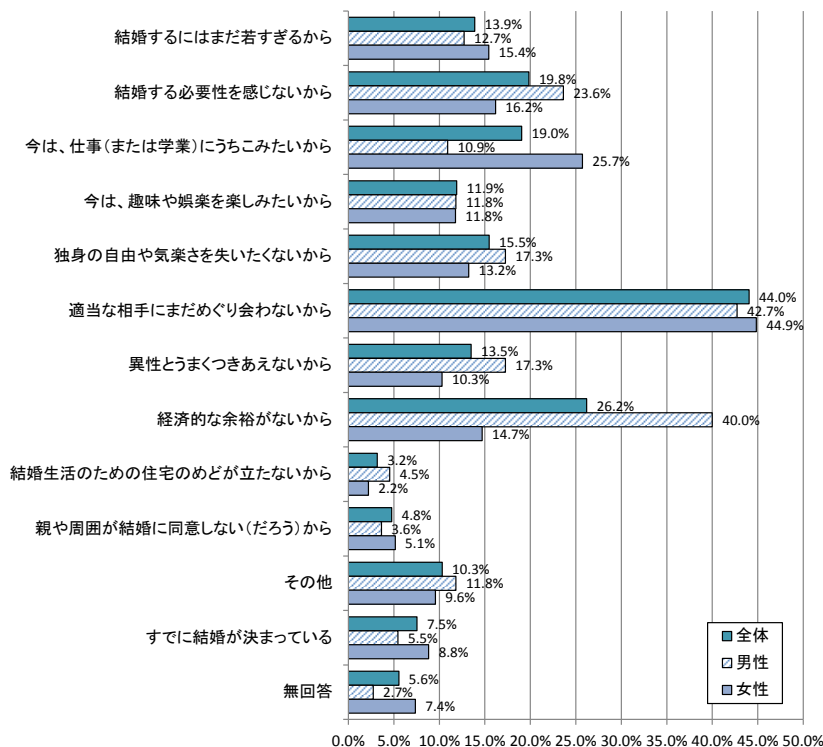


2 独身でいる理由

- ・独身でいる理由を聞いたところ、「適当な相手にまだめぐり会わないから」が44.0%で最も多く、次いで「経済的な余裕がないから」が26.2%、「結婚する必要性を感じないから」が19.8%となっている。
- ・男女別で差がある項目は、「経済的な余裕がないから」で男性が多く、「今は、仕事（または学業）にうちこみたいから」で女性が多くなっている。

図 1 2 独身でいる理由（3つ以内選択）

N=252、男性 N=110、女性 N=136



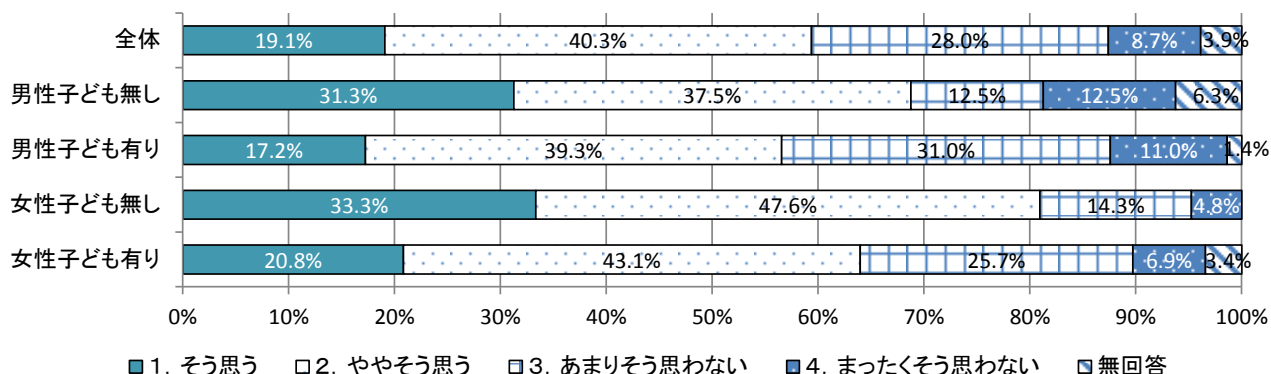
V 仕事と生活の両立に関する意識

1 ワークライフバランス

- ・仕事と生活のバランス（ワークライフバランス）はうまくとれているか聞いたところ、「あまりそう思わない」（28.0%）と「まったくそう思わない」（8.7%）をあわせた『そう思わない』は36.7%となっている。
- ・男女・子どもの有無別では、『そう思わない』が、子どものいる男性（42.0%）は子どものいない男性（25.0%）に比べて17ポイント高く、子どものいる女性（32.6%）は子どものいない女性（19.1%）に比べて13.5ポイント高くなっている。

図13 男女・子どもの有無別 ワークライフバランスの状況

N=881

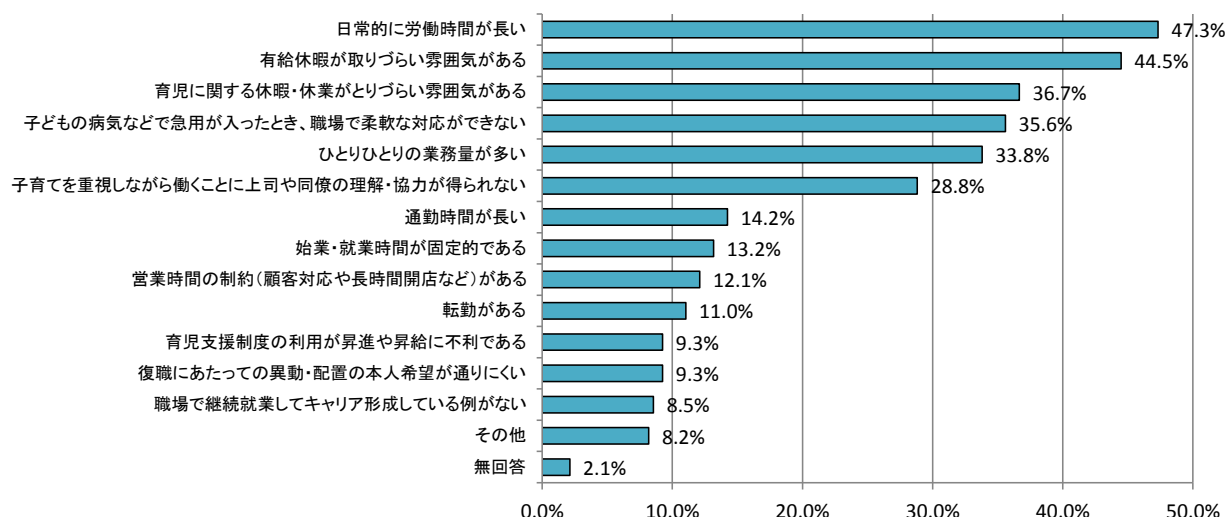


2 働きやすい原因

- ・職場が子育てをする人にとって働きやすいと思わない人にその原因を聞いたところ、「日常的に労働時間が長い」が47.3%で最も多く、次いで「有給休暇が取りづらい雰囲気がある」が44.5%、「育児に関する休暇・休業がとりづらい雰囲気がある」が36.7%となっている。

図14 働きやすい原因（いくつでも選択）

N=281



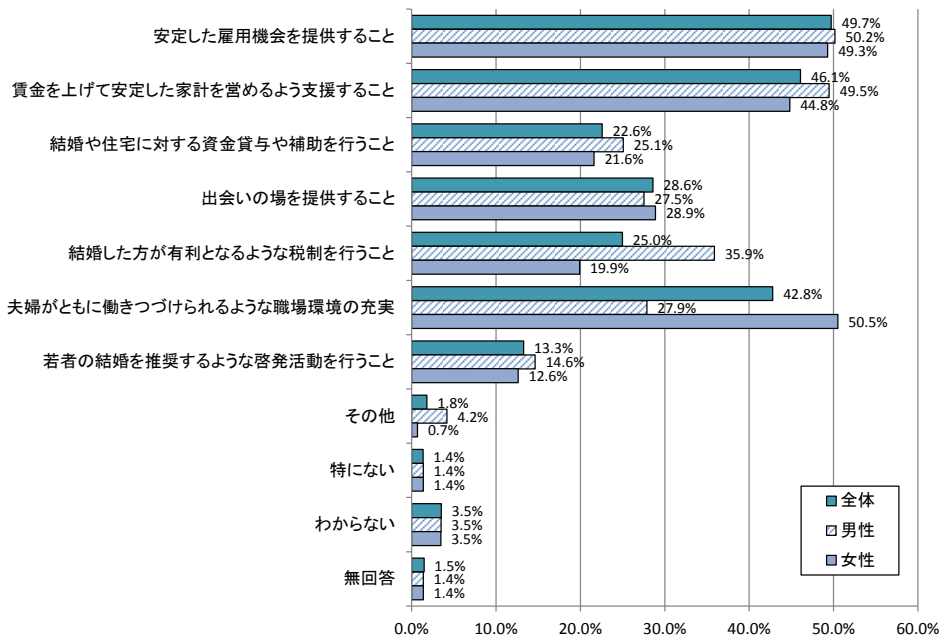
VI 期待する少子化対策

1 結婚を希望する人の結婚を支援する施策

- 結婚を希望する人の結婚を支援する施策として何が重要か聞いたところ、「安定した雇用機会を提供すること」が 49.7%で最も多く、次いで「賃金を上げて安定した家計を営めるよう支援すること」が 46.1%、「夫婦がともに働きつづけられるような職場環境の充実」が 42.8%となっている。
- 男女別で見ると、女性では「夫婦がともに働きつづけられるような職場環境の充実」が 50.5%（男性 27.9%）で最も多くなっている。

図 15 結婚を支援する施策（3つ以内選択）

N=881、男性 N=287、女性 N=578



2 育児を支援する施策

- 育児を支援する施策として何が重要か聞いたところ、「児童手当や扶養控除など、子育てに対する経済的支援を充実する」が 49.3%で最も多く、次いで「保育所の時間延長や保育ママなど、多様な保育サービスを充実する」が 32.0%、「教育費への支援を充実する」が 30.5%となっている。

図 16 育児を支援する施策（3つ以内選択）

N=881

